□倉田悟・中池敏之（編），日本シダの会（企画）：**日本のシダ植物図鑑—分布・生態・分類 1.** 628 pp. 1979. 東京大学出版会. ¥9,000. A4判の大型本で，100種のシダが収録されている。もともと本書は「シダ植物分布図集」として計画されたもので，主体をなすものは5万分の1地形図を4等分した区画（つまり2万5千分の1の範囲）に黒点1個を打ち込んだ分布図である。今までシダでは二三の種類について試みられたことはあったが，100種もの種類について大々的に分布図が描かれたのはこれが初めてである。分布図は南限・北限・飛び飛び分布など分布の現況を明らかにするとともに，他のいろいろの研究のための基礎的データを提供するものであるから本書の学問への役割りは大きい。ところでここで特筆すべきことは，分布図に点を打つに当たって必ず証拠になる標本を残して置いたということである。たとえばあるシダをA地で採集，それと地続きのB地でも採集したが，中間のC地ではまだ採ってないという場合，たとえ確実に存在することが目撃されていても，標本がない限りCを含む地図面に黒点を打つことはできないという厳密なやり方をとっている。分布図は1種類につき1枚とし，全部の黒点につき証拠標本1点ずつ（その地図面上至る所にはえていて証拠標本が多数あるような種類の場合には代表者1点を選び）を列挙し，地図名，地名，採集者名，採集年を記録してある。もう一つ特筆すべきことは，この調査と証拠標本の採集・製作に当たったのはすべて「日本シダの会」の会員だったことである。この会は27年の歴史をもつアマチュアのシダ愛好者の集まりで，現在会員約800，これがこぞってこの企てに参加し，無償で奉仕したという。このようなことがアマチュアの会で行なわれたことは例を見ないことで，実に快挙ということができる。採集された標本は1か所に集められ，編者によって同定が再検され，有志によって台紙に貼られた。

本書の目的は最初分布図だけであったが，後に線画，生態写真，説明文などが加わって図鑑の名にふさわしいものになった。線画は1頁大で31氏，写真は約半頁大で41氏の，どちらも絵や写真を専門としないいわゆる素人の作が大部分であるが，平素シダに親しみシダをよく知っている人々だけに，実によく描かれ，撮られている。説明文は図や写真を補うための短いもので，これは専門家7氏（私も参加）が書いているが，内容，表現，長短，用語ともに不統一が目立つ（例：胞子嚢群とソーラス）。巻末に光学顕微鏡による胞子の写真がまとめて載せてある（次巻以降は電顕の写真にするという）。印刷は全体を通じてきれいな上がりで，活字の選定もよい。扉裏の英文表題以外英語の出ないことも気持ちがよい。ただこの表題の英訳は図解とだけで分布図のブの字も出ないことはまことにまずい。これは本書の真の内容を伝えていないので次巻からは改めるべきであると考える。最後に現在3万5千点にのぼっている証拠標本は，一括して日本シダの会から国立科学博物館に寄贈されるような話になっていると聞いている。

（伊藤　洋）